



大分県は大型連休中（4月29日～5月6日）の観光動向に関する調査結果を公表しました。県内は行楽地などへの人出が昨年同期と比べて9割以上減っています。

①大型連休中の県内の人出が激減したのはなぜでしょう？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



GWの人出9割超減

県の観光動向調査 外出自粛で

大分県は7日、大型連休中（4月29日～5月6日）の観光動向に関する調査結果を公表した。県内は行楽地などへの人出が昨年同期と比べて9割以上減った。新型コロナウイルスの感染拡大防止で外出自粛が呼び掛けられた中、県民をはじめ全国の人が不要不急な移動を控え、各施設も自主的に休業した効果があったとみられる。

新型 コロナ

宿泊施設は調査対象46施設のうち、32施設が休業した。宿泊者は2037人で

97・3%減った。観光施設は主要な30カ所では臼杵市松（臼杵市）のみが営業し、入場者は429人。昨年は「べっふ地獄めぐり」（別府市）やアフリカンサファリ（宇佐市安心院町）などが人気を集め、計59万8573人だった。帰省など県境をまたぐ移

②観光施設、宿泊施設、大分空港、フェリーの中で、昨年に比べて一番減少率が高かったのは？ また、その減少率は何%ですか？

.....

.....

動が減り、交通機関の利用者も激減した。フェリー（7航路）による県内上陸者は3457人で約6万人の減。空路は東京、大阪、名古屋の各方面合わせて1日6往復に減便され、大分空港で降りた客数は874人だった。JR九州は2～6日の特急を全て運休した。国土交通省によると、大分自動車道九重インターチエンス（IC）―湯布院IC間の交通量（4月25日～5月6日）は1日平均5600台で、前年から78%減った。県は大型連休を前に、人との接触を8割減らす努力を県民に要請していた。調査結果の数値はいずれも過去最低とみられる。定例会見で広瀬勝貞知事は「これ以上の感染者を増やさないため協力してもらった結果であり、（激減は）覚悟していた。今後は感染を抑え込む努力と社会経済活動の両立を図ることが大事だ」と話した。（加納慶、渡辺久典）

③広瀬勝貞知事は今後、どんなことに力を入れて取り組むとしていますか？

.....

④新型コロナウイルスが終息したら、あなたはどんな所に観光に行ってみたいですか？

家族や友達にも聞いてみよう。

.....